

## あなたの事業承継・M&A(譲渡)を支援します! ～未来につなげ、事業承継～

### 香川県事業承継支援事業費補助金 2022 年度募集

香川県では、専門事業者を活用して事業承継に取り組む中小企業に対して、事業承継計画の策定やM&A(譲渡)に着手する際に必要な経費の一部を補助します。

**募集期間** 4月11日(月)から6月3日(金)まで

**対象者** 県内で事業を営む中小企業のうち、県内に本社を置く法人など(予算上限を超えて応募がある場合、書類審査により対象者を決定します)

**対象経費** 専門事業者への委託料など(事業承継計画の策定委託料、M&A(譲渡)の着手金など)(支援機関※の支援が必要です)

※支援機関とは「香川県事業承継ネットワーク」構成機関のことで、県内の商工会・商工会議所、金融機関、公的機関などの38団体・機関が加入しています。

詳しくは、身近な支援機関または同ネットワーク事務局の香川県事業承継・引継ぎ支援センター(高松商工会議所内、☎087-802-3033)まで、お気軽にご相談ください。

**補助率など** 補助対象経費の2分の1以内

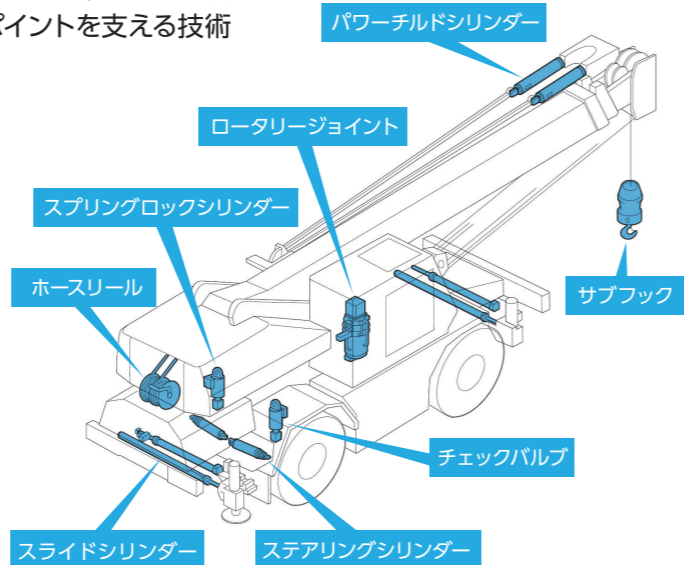
(M&Aの場合は3分の1以内)(上限額30万円)

※詳しくは、4月11日(月)以降に県ホームページに掲載する募集要項などでご確認ください。

(問い合わせ先)  
商工労働部 経営支援課 商業・金融グループ  
☎ 087-832-3345 県HPページID 17137



クレーン車などの主要な  
ポイントを支える技術



アックキューブ



溶接担当の長井亮さん



代表取締役社長の村上幸平さん(左端)と若手技術者たち(山脇稜平さん、中川大介さん、谷川翔さん)



## 挑戦する かがわの 48 ものづくり企業

「油」と「水」の専門技術をさらに高めるのは、組織の意識改革。地域の暮らしから世界で活躍するメーカーのブランドまで幅広く支える、香川のものづくり企業を紹介します。

### 株式会社村上製作所

(住所) 高松市新田町甲297-1  
(創業) 1946年  
☎087-841-4181  
<https://www.murakamiss.co.jp/>



さぬき市の長尾工場

# 組織改革で実現した「3S」のものづくり

## ゼロから生み出せる 自社一貫体制が強い

2021年に75周年を迎えた株式会社村上製作所の歴史は、船のエンジン製造から始まりました。今や世界有数のクレーンメーカーとなった地元企業の創業者に声を掛けられ、日本初の油圧式クレーンの開発に協力したことから、油圧シリンダーの製造を手掛けるようになり、現在は売上の6割を占めるほどに成長しています。

ロータリージョイントは、クレーンの360度回転と全体の制御を支える非常に重要な部品。そんなクレーンの

心臓部とも言えるロータリージョイントをはじめ、アームの上下駆動を支える「パワーチルドシリンダー」や物をつる「サブフック」などさまざまな主要部品を、香川トップクラスの高精度で造り込んでいるのが、さぬき市にある同社長尾工場です。「設計から加工、溶接、組み立てまで全て手掛けており、必要な加工機もできるだけ自社で造っています。自社一貫体制で『暮らしに必要なもの』をゼロから造れるのが当社の強みです」と、5代目社長に当たる村上幸平さん。

一方、高松工場は「水門」のプロ。事業としては油圧シリンダーより古

く、四国の河川やダム、河口などで「水をコントロールする」役割を担い、地域の暮らしを守っています。同社の企業カラーであるブルーの塗装が目印なのだとか。

油圧と水のプロフェッショナルとして、サンポート高松の噴水や全国で有名なレジャー施設のプールに使われる造波装置なども製造。さまざまなメーカーの依頼に基づいて一般産業機器のオーダーメイドを手掛ける傍ら、オリジナル商品として被災者支援用コンテナ「アックキューブ」も生み出しました。「東日本大震災をきっかけに考案した、河川などの水を飲み水にろ過できる浄水ユニット搭載コンテナです」と村上さん。「現在は海外ニーズの方が拡大していますね。昨年末、台風被害を受けたフィリピンで活躍しているのを見た時は、造ってよかったと思えました。一種の社会貢献です」と語ります。

## 自社発信力も育みたい

村上さんは30歳で社長に就任。直後にリーマンショックが起きて大変な思いもしましたが、社内改革に粘り強く取り組んできました。「長期的に考え、若い頃からいろいろな経験を積み、同じ価値観を育みたい」と、同世代の若手を管理職に抜擢。現在も

若手技術者が多く、管理職の多くが40代です。コロナ禍の中、2021年から新たなPRを担う広報係も、若手を中心にSNSや動画配信でもものづくりの楽しさを発信しています。

社員は行動指針を明文化した手帳を携帯し、現場では整理・整頓・清潔の「3S」を徹底。ベテランのノウハウは全て若手に伝え、社内外の勉強会も活発です。5年前から難易度の高い手溶接を任されている溶接担当の長井亮さんは「知りたいことはどんどん聞きにおいて、という周囲の先輩社員に支えられ、技術が身に付きやすい環境。成長を実感し、自信も付きました。もっと学びたいことがたくさんあります」と意欲的です。

村上さんは「まだ満足はしていません」と苦笑しつつも「効率化にもつながりましたし、雰囲気の変化は実感しています。ゴミ一つ拾うところから、気付け力が育まれてきました。ものづくりにもそうした気付きが反映されてきたのではないのでしょうか」と、手応えを感じている様子。「これからは環境整備を続けながら、メーカーとしての発信力・開発力も育んでいきたい」と、力強く語ってくれました。

問い合わせ先  
(公財)かがわ産業支援財団 取引支援課  
☎087-868-9904